

第 27 回ニフティ労働組合定期大会議事録

日時；2014 年 8 月 27 日（水） 18 時 30 分～19 時 45 分

場所：ニフティ株式会社 セミナールーム AB

次第：

1. 資格審査委員選出

司会の後藤執行委員により、人事部の高橋さん、高松さんが資格審査委員に選出された。

2. 資格審査結果報告

資格審査委員により、ニフティ労働組合 499 名中、18 時 30 分現在の本定期大会出席組合員 44 名、委任状提出組合員 307 名である旨の審査結果が報告された。

※第 2 号議案の説明中に 2 名出席者が追加となったため、大会終了時の出席組合員は 46 名となった。

3. 大会成立宣言

後藤執行委員より、資格審査の結果、ニフティ労働組合同約第 20 条に基づき、本定期大会が成立している旨の宣言がなされた。

4. 大会議長選出

満場一致で法務部村上さんが大会議長に選出された。

5. 大会書記任命

大会議長から、WEB サービス営業部野本が大会書記に任命され、満場一致で承認された。

6. 議事運営委員選出

満場一致で法務部小野さんが議事運営委員に選出された。

その後、議事運営委員より議事日程について説明を行った。

また、大会議長より、議案に関して修正案がある場合は議事開始前までに提出するよう宣言があった。

7. 執行委員長挨拶

ニフティ労働組合 池田執行委員長から挨拶があった。

8. 来賓挨拶

ご来賓の全富士通労働組合連合会 副会長 中嶋様からご挨拶をいただいた。

ご来賓のニフティ株式会社 代表取締役社長 三竹様からご挨拶をいただきました。

9. 報告

9-1. 2013 年度一般経過報告

八木副執行委員長より、2013 年度一般経過報告を行った。その後、以下のとおり質疑応答がなされた。

(ビジネスサポートセンター 有泉さん)

春闘交渉の説明についてだが、対象クラス限定で 2000 円アップとなっている。組合は全社員の代表なので、全社員の総額をお教えいただきたい。または平均や一人当たりでもかまわない。

(池田執行委員長)

評価制度は基本給与がテーブルとなっている。この部分がスターターと一般クラスは全員一律で 2000 円アップとなっている。

(ビジネスサポートセンター 有泉さん)

クラス別の人数比率は公開されているのか？

(池田執行委員長)

そのとおり。

(ビジネスサポートセンター 有泉さん)

ということならば、それを併記して報告してほしい。
アップの総額がわかり、どれだけがんばってもらったかがそのほうがわかりやすい。

以上の質疑応答の後、満場一致で報告内容が確認された。

9-2. 2013 年度会計報告

会計の斎藤さんより、2013 年度会計報告を行った。

9-3. 2013 年度会計監査報告

栗野書記長より、2013 年度会計報告を行った。その後、会計報告および会計監査報告について一括して質疑を受け付けた。質疑応答は以下のとおり。

(ビジネスサポートセンター 有泉さん)

ボリューム感は会計士が OK といっているというのがあると思うが、私たちは細かい活動内容がわからない。細かい支出は教えていただけるものなのか。

(栗野書記長)

規約にあるが、組合員からの申請により支出内容を開示することが可能である。

以上の質疑応答の後、満場一致で報告内容が確認された。

9-4. 2014 年度執行部役員および職場委員の選挙結果報告

栗野書記長より、2014 年度執行部役員および職場委員の選挙結果報告を行った。

また、佐々木副委員長の部署名の記載に関し、正しい部署名に訂正を行った

出席者からの質問はなく、満場一致で報告内容が確認された。

10. 議事

大会議長より、修正案の提出がなかったことが報告された。

10-1. 2013 年度運動方針

池田執行委員長より、第 1 号議案について説明がなされた。その後、以下のとおり質疑応答がなされた。

(シェフモビジネス部 米田さん)

「経営のカウンターパートナーとして存在意義を確立する」というのは、実際には、経営層は年齢層が高く百戦錬磨であることから難しいと思うが、それに対抗するために組合執行部として研修をしているなどの取り組みはあるか？

(池田執行委員長)

研修をやっているかという質問について、現在は実施していない。

1 号議案の 4 に執行委員、職場委員への教育について追加した。ここは去年にないところで今後はやっていく。

ご指摘の点は、私自身も感じているところで、足りなかったところとしては、組合員の声をすべて吸い上げるというところが弱かった。組合員のボリュームをもって存在意義を確立し、「経営のカウンターパートナー」となっていきたいと考えている。

以上の質疑応答の後、挙手による採決がなされ、第1号議案は賛成多数で可決された。
なお、賛成42名、反対0名、保留2名であった。

10-2. 2014年度予算

栗野書記長より、第2号議案について説明がなされた。

ここで、出席者が2名追加となった。

その後、以下のとおり質疑応答がなされた。

(ビジネスサポートセンター 有泉さん)

概算ということもあると思うが、収入の組合費が月当たり100円増えているがなぜか？

(栗野書記長)

前期まで2900円だったが、実績は3000円以上となっている。

3000円以上は確保できる予算として考え、目安として予算を立てている。

(ビジネスサポートセンター 有泉さん)

昨年度の資料が手元にないが、毎年の会計報告は2900円ということか？

(栗野書記長)

予算は2900円となっている。実績と決算は先ほどの報告のとおり。

(八木副委員長)

補足で説明する。組合費は皆さんの給料の1%。

給料や組合員総数が変動すると、その分組合費も変動する。

今回3000円で予算を組んだのは、2013年度の実績ベースで予算を立てたという意味になる。

(ISP企画営業部 柳川さん)

支出の調査研究費の内容について質問する。

調査研究費というのは何のことなのか。また、今期の予算で職場委員が増えた理由を知りたい。

(栗野書記長)

調査研究費は、チームの活動、進捗の確認等に関しての費用にあてている。

欠務入力して組合活動していることから、執行役員や職場委員に一律に支払われている。

(シュフモビビジネス部 米田さん)

会議費は具体的に何の費用か

(栗野書記長)

直接対話(ワーカーズラウンジ)の部分が大きい。その際の参加者のランチミーティング(弁当代など)の飲食代の費用のこと。

(クラウドプラットフォーム部 森藤)

具体的に、調査研究費のところは1号議案にあるようなひとりひとりの対話に使われる?

(栗野書記長)

調査研究費には、執行部の飲食代も入っている。

(クラウドプラットフォーム部 森藤)

直接対話の部分はどこになるのか?

(八木副委員長)

調査研究費は、一般経過報告でお話したような執行部活動の活動費の部分。

会議費は、ワーカーズラウンジなどの直接対話の費用。

来期以降の細かいところは来期のメンバーで話しあってから決定する事項だが、ランチを食べながらの直接対話部分が会議費にあたる。

(シュフモビビジネス部 米田さん)

そういう会議費に、委員の方々の稼働のお金は入っているのか?

対話を増やすところはボランティアになるのか?

(池田執行委員長)

活動費の考え方として、お昼の飲食代を出しているときは重複しないようにしている。

その分の活動費を出さないようにしている。

(ビジネスサポートセンター 有泉さん)

積立金の闘争資金の適用は?具体的な使い道がイメージできない。

過去にどういった形でどういう規模のものを使ったのか?

(池田執行委員長)

闘争資金はストライキを想定している。

ストライキをやった実績はない。全富士通労連の中でも富士通労組が40年前くらいにやった程度。基本的には使われることはない想定ではいる。

ストライキが会社に与える影響も考える必要がある。

今後、何があるかわからないので貯めておきたいところ。

全組合員がストライキしたときに一瞬でなくなってしまう金額となっている。

今後どうしていくか、何が起きそうかというところを鑑みて検討していく必要がある。

(クラウドマーケティング部 南河さん)

積立金の共済資金について。実績は予算に対して100万円オーバーだが、今期の予算が変わってない。どうして実績より予算が低いのか。

(栗野書記長)

共済資金については、一律で加入している全労災のセット共済や慶弔費が含まれている。

慶弔費は実績ベースで変わってくる。あくまで予算として計算している。

以上の質疑応答の後、挙手による採決がなされ、第2号議案は賛成多数で可決された。

なお、賛成45名、反対0名、保留1名であった。

10-3. 『規約の改訂および新設に関する件』

池田執行委員長より、第3号議案について説明がなされた。その後、以下のとおり質疑応答がなされた。

(ビジネスサポートセンター 有泉さん)

40条の第一項の「役員は組合を代表し」という記載は、一人の執行委員が組合を代表できるという意味か。

(池田執行委員長)

一人が単独で交渉するというの基本的にはない。

原則は役員全員で会社と交渉していく

以上の質疑応答の後、大会議長より、本件は大会終了後に、無記名の投票により過半数の承

認をうけた時点で批准される旨、宣言された。

10-4. 外部監査委嘱に関する件

佐々木副委員長より、第3号議案について説明がなされた。

出席者からの質問はなく、挙手による採決がなされ、第4号議案は賛成多数で可決された。
なお、賛成45名、反対0名、保留1名であった。

以上